

口之津小学校 学校だより



希望の丘から

希望の丘で本物の口之津っ子を育てます。

令和7年3月3日

6年度 第13号

校長 本村 英治

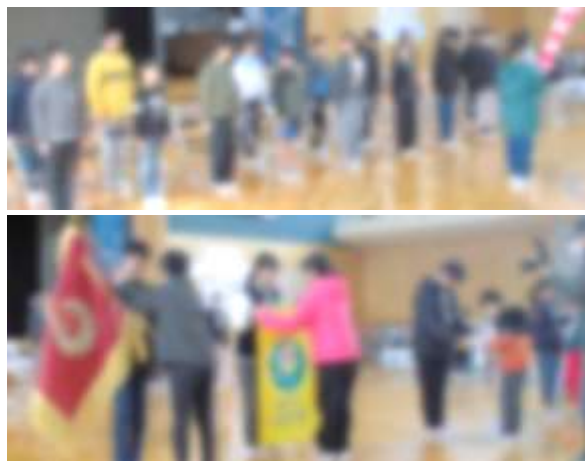
学校だより「希望の丘から」タイトルは、校歌の歌詞「希望の丘の学舎は」から採用しました。口之津っ子の成長をお伝えしていきます。

これまでありがとう！中学校でもがんばって！ お別れ集会

2月21日（金）、お別れ集会を実施しました。これまで最高学年として全校をリードしてきた6年生が卒業するにあたり、各学年からの感謝と励ましを伝える会です。

1年生から始まった各学年の発表は、合奏、プレゼント、ダンス、呼びかけ等があり、どの学年も6年生のために練習し、心のこもった内容でした。中でもよくがんばっていたのは、次年度最高学年となる5年生で、全身で気持ちを表現していて、感動的でした。6年生からも発表があり、この1年間の思い出や自分たちのがんばりを伝えるものでした。

運営委員会による校旗やウルトラマン旗の引継ぎ式では、6年生が受け継いできたすばらしい口之津っ子の伝統を1～5年生に託していました。



この会は、卒業式の厳粛な式とは違って、子どもたちの素直な気持ちが伝わる機会です。毎年感動的です。多くの方にも見てほしいと思います。6年生への感謝の会ですが、各学年の1年間の成長や学年や上級生と下級生の絆が感じられます。その成長を支えた指導をしてくれた先生方にも感謝です。

心温まるすばらしい会になりました。卒業式の練習が始まっています。当日はまた違った感動的な式になると思います。



3月の主な予定

- 4日 委員会活動（新メンバー）
6年生と技能実習生との交流授業
- 5日 卒業式全体練習
- 7日 卒業式全体練習
- 10日 学年末短縮授業（～14日）
- 11日 口之津中学校卒業式
- 12日 卒業式予行
- 14日 PTA 広報部作業（学校）
- 16日 家庭の日

- 17日 卒業式式場設営
- 18日 第20回卒業証書授与式
- 19日 食育の日 小中連絡会
1～5年欠課
- 20日 （祝）春分の日
- 21日 1～5年欠課
- 24日 修了式・離任式
- 25日～ 学年末学年始め休業
- 4月 7日 令和7年度 始業式



CSだより⑨ 1年間の協議の総括としての3つの提言

第3回学校運営協議会



2月12日（水）に第3回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会には、この1年、口之津小・中学校の学校運営のパートナーとしてご意見をいただけてきました。第3回は年度の総括を中心に協議が行われました。

6年度の学校運営について校長から説明を行いました。概ね良好な運営との評価をいただきました。

次に、「口之津地区で育てたい子ども像」の実現に向けての協議の総括として「提言」という形にまとめ、各組織に伝達することにしました。今後は、この提言を受け、各団体が主体的に行動に移されることを期待しています。さっそくみなとオアシス様のご協力の意向を示してくださいました。

「あいさつ・返事ができる口之津っ子」についての3つの提言

- 1 あいさつの重要性に関する啓発活動の推進
- 2 家庭と連携したあいさつ習慣の育成
- 3 地域社会との交流機会の充実

学校運営協議会と地域学校協働本部が発足して、間もなく2年となります。これまで、ふるさと学研を契機として、様々な形で小・中学校の学校運営や教育活動の支援にご尽力をいただけてきました。2つの組織は、なくてはならないものになったと実感しています。準備委検討委員会設立からお力添えをいただいた栗田会長様、林副会長様はじめ委員の皆さま、本当にありがとうございました。

ご協力、ありがとうございました

豪雨時等引き渡し訓練



2月20日（木）に行いました豪雨時等引き渡し訓練については、保護者の皆様のご理解とご協力をいただき、終始円滑に実施できました。懸念事項であった自動車の渋滞等も引き渡しに影響するものではなく、職員の連携や子どもたちの動きについても問題はありませんでした。

今回、感心したのは、子どもたちの訓練に臨む真剣な態度です。全校児童が、話し声も出さず、落ち着いて速やかな移動ができていました。日頃の学級での状況が非常時に生きることがよくわかりました。

年度末・年度始めを安全に

3月に入りました。この時期は、落ち着かない子どもたちも増えてきます。学校でも事故や問題行動防止の指導を強化することで共通理解しました。というのも、子どもたちの気になる行動の情報が入ってきているからです。

子どもたちにとっては、大切な学年末・学年始めの時期です。重大な事故につながらないよう、問題行動がエスカレートしないようご家庭でも指導をお願いします。気になることがあれば、躊躇することなく、毅然と指摘していただきたいと思います。配慮は必要ですが、家族ですから遠慮はいりません。家族の眼がその予防線となります。私たち学校職員も含め、多くの眼で口之津っ子を守りましょう。

